

がん診療における PDCA サイクルの構築(2020-2021)

	課題	目標	検証
1	がん診療の充実	がんの手術、薬物療法、放射線治療、緩和ケア介入件数の増加	がん診療推進・院内がん登録委員会で検討
2	がん患者の苦痛のスクリーニング推進	苦痛のスクリーニング件数の増加、多診療科への拡充	がん診療推進・院内がん登録委員会で検討
3	がんに関する啓蒙・啓発活動の推進	市民公開講座、登録医対象のセミナー、院内研修会を開催する	がん診療推進・院内がん登録委員会で検討
4	がんゲノム医療の推進	がんゲノム医療の紹介数増加、がんゲノム医療連携病院申請	がん診療推進・院内がん登録委員会で検討

課題 1. がん診療の充実

がんにかかわる治療として手術、薬物療法、放射線療法が3つの柱である。これらの件数は緩和ケアやがん登録と併せて、地域がん診療連携拠点病院の要件となっている。この件数を正確に随時把握し、院内のがん診療の充実度の指標として自施設の評価を行うことが必要である。その上で、さらなるがん診療の充実を図る。

	項目	要件	2018	2019	2020	2021
ア	院内がん登録数	500	1,266	1,113	1,229	1,443
イ	悪性腫瘍の手術件数	400	658	818	761	1,046
ウ	がんに係る薬物療法のべ患者数	1,000	736	1,099	1,237	1,488
エ	放射線治療のべ患者数	200	230	248	289	301
オ	緩和ケアチームの新規介入患者数	50	63	88	71	164

【評価】2020 年度にはコロナ禍に関連すると思われる手術件数の減少がみられたが、2021 年度にはすべての件数が増加しており、がん診療がバランスよく推進されていると考えられる。

課題 2. 苦痛のスクリーニングの拡充

苦痛のスクリーニングの体制を整備するために、腫瘍内科、がん治療支援科に入院患者を対象に院内統一書式による対象患者の拾い上げを開始した。その件数を増やすとともに、それ以外の診療科にも拡充していく必要がある。

苦痛のスクリーニング件数は、現在では月 50 件程度まで増加してきているが、腫瘍内科、がん治療支援科に偏っている状況である。

【評価】腫瘍内科の病棟においては、緩和ケア認定看護師が中心に苦痛のスクリーニングを推進しているが、コロナ対応などで各病棟の業務負担が大きくなっており、他病棟への拡充は簡単ではない状況である。がん患者が多い病棟から少しずつ拡充していく必要がある。

課題 3. がんに関する啓蒙・啓発活動

がん診療連携を活性化するための地域医療従事者向けセミナーや市民に対する啓蒙・啓発を目的とした市民公開講座などが必要である。

1) 登録医を対象としたオンラインセミナーを開催

2021 年 12 月 20 日「がん薬物療法における地域連携」腫瘍内科 下平秀樹
「がん薬物療法における薬薬連携」薬剤部 平川寛之

2) 市民公開講座を YouTube で配信

第 1 回～第 5 回まで配信

- ① 2021 年 12 月「がんの予防」腫瘍内科 下平秀樹
- ② 2022 年 2 月「チームで支えるがん薬物療法」看護部 佐藤みほ
- ③ 2022 年 3 月「胃がん検診の大切さ」消化器内科 福士大介
- ④ 2022 年 8 月「がんでも健康でいられるために」放射線科 石川陽二郎
- ⑤ 2022 年 10 月「健康な人が考えているたった一つのこと」放射線科 石川陽二郎

【評価】地域医療従事者向けセミナーは年 1 回のペースでしか実現していない。市民公開講座に関しては YouTube での配信が 2 か月毎に定例化しており成果が上がっている。

課題 4. がんゲノム医療の推進

現在、当院はがんゲノム医療連携病院等になっていないため、必要な場合はほとんどががんゲノム医療中核拠点病院である東北大学病院に紹介している。当院の患者にがんゲノム医療が受けられないという不利益がないよう、紹介数を増やすとともに、当院ががんゲノム医療連携病院になるように体制整備を進める必要がある。

がんゲノム医療の紹介は年間 15 例程度である。がん患者全体の割合としてはまだ少ない状況である。

2022 年 6 月にがんゲノム医療体制整備ワーキンググループを立ち上げ、2022 年 8 月に東北大学病院に見学に行った。

【評価】がんゲノム医療に関して、周知・啓発が十分ではない。院内でのセミナーなどが必要である。がんゲノム医療連携病院申請に向け準備中であり、進捗はしている。